

2023年度 第3回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2024年1月10日（水）19時～19時30分

場所：オンライン開催（zoom）

出席：川口 善治（担当理事）、大島 寧（委員長）、長谷川 和宏（アドバイザー）

明田 浩司、重松 英樹、鈴木 亨暢、高畑 雅彦、茶園 昌明、二階堂 琢也、福岡 宗良、山崎 隆志、谷島 伸二

欠席：西良 浩一、竹内 大作

杏林舎/岡田、明松（記）

■報告事項

- ・2023年度の優秀論文賞の受賞者2名を選出した事が報告された。
1月の理事会にて承認の上、4月の学術集会にて表彰を行う予定。

■審議事項

JSR 掲載論文の二次出版について

- 大島委員長：JSR に掲載された論文を英文誌に二次出版として掲載したいという著者からの連絡があった。
- 川口理事：英文誌に掲載された論文を日本語にしたいという希望は今まであったが、逆は初めてのため先生方のご意見を伺いたい。
- 杏林舎明松：二次出版の論文を英文誌に載せると価値はその雑誌に出るため SSRR 以外の雑誌に載せる許可を出す日本脊椎脊髄病学会自体にメリットが出ない。そのため SSRR 以外は許可しないという事も選択肢に入る。また論文の中身が日本人医師向けの場合には二次出版自体を許可しないという事も可能である。
- 長谷川アドバイザー：メジャージャーナルで和文誌から英語化した二次出版は見た記憶がなくレアケースだとは思われるが、今後も増えていく可能性があるため同様の依頼があった場合の対応を今回検討したい。
- 山崎委員：新しい知見を得る機会に繋がりがいい事であると思う。また一次出版先が JSR というのも雑誌の宣伝になるのでよいのではないか。
- 高畑委員：二次出版の要件からすると、読者層が重複する SSRR より、読者層の異なる他の海外誌に投稿いただくのが妥当なのではないか。
- 鈴木委員：この様な二次出版が一流海外雑誌に受理される事はあるのか。

- 杏林舎岡田：通る可能性は低い。理由として自身の雑誌で初めて出版をし Privilege (特権) を得たいという意向があるため既に他誌で掲載された論文を二次出版として採用する事はそうないと思われる。なお SSRR は現在読者層や投稿者の国がインパクトファクター (IF) を取った事もあり大幅に増えているので SSRR で二次出版を出す事もよい事だと思う。
- 鈴木委員：日本語でしか出せないとするとも今後 JSR 誌が衰退していつてしまう可能性があると思うので英語化する事に賛成。
- 長谷川アドバイザー：もし海外誌に二次出版が載った場合 IF はどうなるのか。
- 杏林舎岡田：引用した側が一次、二次どちらを文献に記載したかで変わる。
- 茶菌委員：SSRR に載せた場合 IF が取れるとの事だが散見する可能性があるなら英文化考える必要があると思う。
- 福岡委員：英文化までしたいと考えている著者は執筆意欲がある方だと思うため許可していいと考える。
- 大島委員長：英文誌に投稿したいと思う著者が多く JSR への投稿が減っているのが現状。英文化の二次出版を許可出来る状況であれば日本語でも論文を投稿してくれる著者が出てくるのではないか。そのため SSRR を一度薦めて二次出版を認める方向で動いてみてはどうか。
- 長谷川アドバイザー：SSRR 以外で二次出版を出したいという事であればその都度理事会で審議して頂いて最終決定をする形で様子を見れば大きな問題は発生しないのではないか。

→JSR に採用された論文を二次出版として英語化する事を基本的に許可する。ただし、JSR および SSRR のさらなる発展を期待して二次出版先には SSRR を第一候補とするよう提案する。著者が SSRR 以外の海外雑誌へ投稿を希望した場合には理事会で都度検討を要する。